Thanks 50th 2020 Anniversary

公益財団法人岩手県予防医学協会
創立50周年記念誌

公益財団法人岩手県予防医学協会　創立50周年記念誌

すこやかに生きる力を
公益財団法人
岩手県 よぼういがく協会

公益財団法人岩手県予防医学協会

創立50周年記念誌

シンボルマーク

1979（昭和54）年、県民の公募により決まりました。公益財団法人岩手県予防医学協会の頭文字「い」を鳥のモチーフとしてデザインしています。平和で健康、そして限りない県民の幸福を表現しています。

検診車「あおぎり号」

検診車「あおぎり号」の名前は、落葉樹「あおぎり」に由来します。この樹木は、広島の原爆から蘇った木として、また伝説の鳥、鳳凰が宿る木として有名です。このたくましい生命力がある木に、健やかな未来を託して、命名しました。

キャラクター

アーリー

2020（令和2）年、創立50周年を記念してキャラクターを新たにしました。あおぎりの木から生まれた妖精「アーリー」です。早期発見・早期治療（早期:Early）のために頑張っています。襟元にあるのは3つの種。身体・心・社会がすこやかになることを願って蒔いています。

基本理念・基本方針

公益財団法人岩手県予防医学協会は、基本理念に基づき人と社会に貢献する予防医学の専門機関となることを目指します。

基本理念

岩手県民の健康と福祉に寄与する

基本方針

1. 私たちは、健康診断を通じ、県民の健康寿命の延伸、健康度の向上に努めます
2. 私たちは、健康の保持増進に視点を置き、県民が健康で豊かな生活を営むことができるよう支援します
3. 私たちは、常に高い技術と最新の知識の習得に努め、生命尊重の精神によるサービスを提供します

人事理念・人事基本方針・期待される職員像

公益財団法人岩手県予防医学協会は、人が成長する環境をつくることで、職員の意識改革を促し、自ら仕事に取り組む人を育成します。

人事理念

笑顔を創造する人の育成

人事基本方針

1. 自分の役割に責任を持ち、協働して仕事を進めていける環境をつくる
2. 自主的に能力向上に取り組み、チャレンジできる環境をつくる
3. モチベーションを高める環境をつくる

期待される職員像

1. ビジネスパートナーの笑顔を創造する人
2. 自分の仕事に喜びを感じ、活き活きと仕事ができる人
3. 高い専門能力を有する人
4. 常に問題意識を持ち、創意工夫のできる人
5. 社会に貢献し模範となる人

予防に勝る治療なし

Prevention is better than cure.

創立時から受け継がれる理念は

人生100年時代を迎えようとする今、

より重要性を増し、注目を集めている。

私たちは「予防に勝る治療なし」を

これからも胸に刻み、新しい時代へと向かっていく。

50年、さらに先へ

公益財団法人岩手県予防医学協会　会長
小原 紀彰

ケンシンハフヨウデス。

などという時が来たら、それこそ盛大に記念式典や祝賀会を行いたいと存じます。

それまでは、この思いをタイムカプセルに託すことにいたします。

さて、50年。県民の皆様、県や各市町村並びにJA厚生連をはじめとする関係各団体の皆様のご理解とご支援のおかげと心より感謝申し上げる次第でございます。

よく、50周年を節目と言う方がおられます。行き着く先があるのであれば節目、ということもあるでしょうが、私どもは単なる通過点であると考えております。しかし、これから先、漫然と時を刻むようでは、待っているのは衰退。この50周年を契機に私たちは変わってゆかなければなりません。

強いものが生き残るのではない。賢いものが生き残るのでもない。『変化するものだけが 生き残る（ダーウイン進化論）』とも『脱皮しない蛇は死ぬ（Nietzsche）』ともいわれます。そこで、最近の世界の流れであるSDGsにあやかり、予防医学協会版SDGsを目指しさらに一歩先へ、歩を進めます。もちろん協会の理念である『県民の健康と福祉に寄与する』、この姿勢を決して忘れることなく、『Yes』か『ハイ』か『喜んで』、の精神でただひたすら下から支え、そばに寄り添うことにいたします。

本来であれば、協会をご愛顧いただいた方々お一人おひとりに直接御礼を申し上げなければならないところではございますが、なにとぞ、お許しをいただきたいと存じます。

今後も県や関係市町村あるいは関係各位のご指導、ご理解とご支援をいただきながら、職員一同靴底をすり減らし、汗をかく所存でございます。

なにとぞよろしくお願い申し上げます。

Contents／目次

005　ご挨拶

006　祝辞

016　〈特集〉深化、そして未来へ
集団と個の両輪へ
新しい歴史の始まり

032
第1章　岩手県予防医学協会　50年のあゆみ
理想を掲げ、行動に移す

034　50年の通史年表

036　〈前史〉予防に勝る治療なし｜1961-1969

038　県民の健康と福祉を願って｜1970-1979

046　【協会人物伝 1・2】

048　新天地で飛躍に向けた再出発｜1980-2009

058　【協会人物伝 3・4】

060　創立半世紀に向けた躍動の10年｜2010-2020

068　〈特集〉東日本大震災の記録

084　Table Talk vol. 1
岩手の保健福祉を担って
予防医学の精神を次世代へ受け継ぐ

093
第2章　岩手県予防医学協会　事業活動のあゆみ
留まることなく進化を続ける

学校保健／地域保健／産業保健／人間ドック
健康支援／母子健康／結核予防／システム
検診車「あおぎり号」

124　Table Talk vol. 2
人生100年時代
予防医学協会は
どのように貢献していくか

133
第3章　岩手県予防医学協会　現況
見えない壁を越えて
つながる

医局／会長・専務・常務・事務局長・部長
総務部　総務課／総務部　経理課
事業推進部　地域学校健診課
事業推進部　産業健診課
事業推進部　施設健診課
事業推進部　事業管理課
情報管理部　情報管理課
健康推進部　健康推進課
医療技術部　臨床検査課
医療技術部　生理機能検査課
医療技術部　環境保健課
医療技術部　放射線課
幼老統合事業部
県南センター／組織図
集合写真
あおぎり会

158
第4章　資料編

50年のあゆみ／50年の推移グラフ
各種受賞一覧／研究発表
研修会・講演会記録／組織の変遷
歴代役員／現職員名簿
従業員数の推移・施設概要

218　編集後記

公益財団法人岩手県予防医学協会
創立五十周年誌の刊行に寄せて

岩手県知事
達増 拓也

岩手県予防医学協会の設立五十周年を心からお祝い申し上げます。

岩手県予防医学協会におかれましては、これまで半世紀の長きにわたり、健康づくりの専門機関として、県民の健康増進、予防医学の発展・普及に多大な貢献をしてこられました。

ここに、深甚なる敬意を表します。

貴協会は、生活習慣の改善や健診など予防医学の重要性が唱えられ始め、本県の県民病とも言われる脳血管疾患の死亡率が上昇のピークを迎えた昭和四十五年に、関係各位の大変な御努力によって設立されました。

以来、本県の予防医学の中核として、昭和四十七年に検診車による地域や職場、学校を巡回しての健診活動を開始し、その後も一日人間ドックや全国に先駆けた歯周病検診の実施、特定健診・特定保健指導への対応のほか、平成二十三年三月十一日に発生した東日本大震災津波では、応急仮設住宅の集会所等を定期的に巡回し、被災者の健康相談や栄養指導にも御尽力いただきました。また、平成二十五年に新たな施設Big Waffleを整備・移転され、以降ヘルシーレストランや保育園と児童クラブ、デイサービスの幼老統合施設、精密検査外来施設を順次開設されるなど、県民の健康課題に適時、適切に対応し、県民の健康の増進と福祉の向上に大きく寄与してこられました。

この間、本県における健康づくり対策は、飛躍的に充実してきましたが、貴協会の御功績は誠に大きく、改めて感謝を申し上げます。

県では、平成三十一年四月からスタートしました「いわて県民計画（2019～2028）」において、県民の幸福に大きく関わる「健康」を政策分野の一つに位置付け、生涯を通じた健康づくりを推進することとしております。

この計画の推進に当たっては、長年、県民の健康づくりに大きな役割を果たしてこられた貴協会に、大きく期待するところであります。昨今の新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い各種健診等への影響が懸念される中ではありますが、感染防止策を適切に講じられ、引き続き、県民の生涯にわたる健康の増進に御協力くださるようお願いいたします。

結びに、貴協会のますますの御発展を祈念し、お祝いの言葉といたします。

50周年を迎えるにあたって

岩手労働局長
小鹿 昌也

公益財団法人岩手県予防医学協会におかれましては、昭和45年に任意団体として発足され、本年で50年という大きな節目の年を迎えますことに心よりお慶び申し上げます。

貴協会の小原会長をはじめ役職員の皆様方には、長年に亘って、「岩手県民の健康と福祉に寄与する」という基本理念のもと、多くの岩手県民の健康・福祉の増進に多大に寄与されてきましたことに敬意を表します。

岩手労働局といたしましては、各企業における各種健康診断・健康増進事業の実施による健康支援、作業環境測定の実施による適正な作業環境の確保に努めていただき、とりわけ、労働安全衛生確保対策を中心とした労働行政の推進につきまして、格段の御理解と御協力を賜っておりますことに厚く御礼申し上げます。

さて、岩手県内の経済情勢は、復興需要の減少のほか新型コロナウイルス感染症の影響から、悪化しており、経済活動が再開される中においても依然として厳しい状況にありますが、雇用調整助成金の日額上限額の引上げ等の「雇用を守るための支援」を拡充し労働者の雇用維持等を支援しているところです。

このような中においても、労働者の安全と健康の確保は企業経営の根幹をなすものですので、2018年度（平成30年度）を初年度とする第13次労働災害防止計画を策定し、「死亡者数を2017年（23人）と比較して、2022年までに30％（7人）以上減少させ、16人以下とする。」などの目標達成のため、震災の復旧・復興工事における労働災害防止対策、死亡災害をはじめとした重篤災害等の撲滅を目指した対策、過労死等の防止等・労働者の健康確保対策の推進等について取り組んでおります。

岩手労働局といたしましても、貴協会と緊密に連携し、益々の労働安全衛生水準の向上を目指してまいりたいと考えていますので、今後とも、労働行政に対する一層の御支援・御協力をお願い申し上げますとともに、新型コロナウイルス感染症の大規模な感染拡大防止に向けた取組についても御協力くださいますよう重ねてお願い申し上げます。

末筆ながら、東日本大震災、度重なる台風被害からの一日も早い復旧・復興と岩手県内で働くすべての方々が安全、安心に暮らせること、そして、貴協会並びに役職員の皆様方の益々の御発展、御健勝を御祈念いたしまして、私からの祝辞とさせていただきます。

公益財団法人岩手県予防医学協会
創立五十周年記念誌の刊行に寄せて

岩手県市長会会長　盛岡市長
谷藤　裕明

岩手県予防医学協会の創立50周年を心からお祝い申し上げます。

貴協会におかれましては、昭和45年の発足以来、健康づくりの専門機関として、地域、職域、学校等あらゆる分野での健康診断や健康教育を通じ、県民の健康増進、予防医学の発展・普及に大きく貢献されてこられました。

また、近年にあっては、健康診断・健康推進事業を目的とした施設「Big Waffle、県南センター」、幼老統合事業を目的とした施設「Cocoa」、精密検査外来施設「ふわり」など、生涯に亘る健康増進のため、様々な事業に鋭意取組まれ、本県の予防医学の中核としての位置をより確かなものとされております。

ここに、心から敬意を表する次第であります。

さて、岩手県市長会では、地方自治の振興に寄与するため、各市間の連絡協調を図り、共通の行政課題の調査研究や、国等への提言・要望活動等を行っておりますが、各市においては、少子高齢化と人口減少の中にあっても、それぞれの地域の活力を生かした豊かな社会を実現するため、地方創生の取組に邁進しております。

そのような活力ある社会の基本として、住民が豊かな心と健やか身体で毎日を過ごせること、特に高齢者が、人生百年、生涯現役時代を迎え、その経験・知識を十分に発揮できることが、大変重要であります。

現在、各市においては、国が掲げる「健康日本21（第２次）」のもと、地方計画を策定・推進しておりますが、健康寿命の延伸をはじめとする健康増進への取組に際しては、住民や関係機関と、それぞれの地域の課題を共有し、力を結集しながら取組んでいくことがより重要となっており、長年、予防医学の専門機関として、県民の健康づくりに大きな役割を果たしてこられた貴協会に対する期待は、益々大きくなっております。

結びに、貴協会が、その崇高な事業理念を基に、県民の健やかな笑顔のため、健診活動など「予防医学」のより一層の推進により、今後とも本県の健康づくりに貢献され、ますますご発展されますことをお祈り申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

設立五十周年を祝して

岩手県町村会会長　軽米町長
山本　賢一

このたび、公益財団法人岩手県予防医学協会が設立50周年を迎えられたことに対し、衷心よりお祝いを申し上げます。

貴協会は、昭和四十五年の発足以来、「岩手県民の健康と福祉に寄与する」を基本理念とし、創立当初から健康診断・健康増進事業に積極的に取り組み、多大な成果を挙げてこられたところであり、設立五十周年を迎えられましたことは誠に意義深いことであり、お慶び申し上げます。

貴協会におかれましては、本県の保健予防活動の中心的役割を果たすとともに、健康診断や健康づくり活動の推進を通じて県民の健康増進に貢献されておられます。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、不要不急の外出自粛など、極めて広範囲にわたる社会的・経済的な影響が生じたところでありますが、貴協会におかれましては、県民が引き続き健康診断等を受診できるよう、感染症拡大防止の取り組みをされており、その不断の努力に敬意を表するところであります。

住民に最も身近なところで保健福祉行政を担う私ども町村長にとりましても、地域住民の健康増進に多大な役割を果たしてこられた貴協会の功績は誠に大きく、改めて感謝を申し上げる次第であります。

岩手県町村会といたしましても、総合健康支援機関としての役割を担われておられます貴協会との協力関係をより一層深めるとともに、山積する諸課題に積極的に取り組み、地方自治の振興発展に寄与して参る所存であります。

結びに、貴協会が五十周年を節目として、ますますご発展されることをご祈念申し上げ、記念誌発行にあたってのお祝いの言葉といたします。

創立50周年記念誌の発刊に寄せて

岩手県教育委員会　教育長
佐藤 博

岩手県予防医学協会の創立50周年を心からお祝い申し上げます。

貴協会におかれましては、50年間の長きにわたり、健康づくりの専門機関として、本県の児童生徒及び教職員の健康管理と健康教育に御尽力いただいておりますことに、あらためて感謝を申し上げますとともに、心より敬意を表します。

次世代を担う児童生徒が、生涯にわたり健康で豊かな生活を営むことは、私どもの切なる願いでありますが、近年の社会経済情勢の変化やそれに伴うライフスタイルの変化などに起因した、児童生徒の生活習慣の乱れや心の健康の問題など、子どもたちの心身の健康に関する課題は深刻かつ多様化しております。

このような中、学校における健康診断は、児童生徒の教育を円滑に行うための保健管理の中核であると同時に、生涯にわたる健康の保持増進のために必要な実践力を育成するための教育活動としての側面もあり、その重要性が一層高まっています。

本県は平成23年3月11日に東日本大震災津波を経験し、多くの尊い命が犠牲になり、子どもたちにも深い悲しみと心の傷を与え、多くの学びの場が奪われました。そして、その経験から10年が経とうとしている今、新型コロナウイルス感染症が、再び児童生徒の心身の健康に影響を及ぼしつつあります。

度重なる危機や脅威を現実として受け止め、力強く生きていくことが私たちに求められており、すべての県民が心を一つにして共に歩むことこそ大切にしていくべきことと考えます。

子どもたちが、個々の持つ能力を最大限に延ばすことができるよう、学校・家庭・地域がこれまで以上により密接な連携を図りながら、児童生徒が自らの健康の保持増進を図るための実践力の涵養や、豊かな人間性を育む心身の健康教育を一層充実してまいりたいと考えております。

結びに、今後とも、児童生徒一人ひとりの幸福を守り育てる健康教育の推進に御協力・御支援賜りますことをお願い申し上げますとともに、貴協会がますます御発展されますことを御祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

創立50周年を祝して

一般社団法人　岩手県医師会　副会長
小川 彰

岩手県予防医学協会設立50周年誌の発刊にあたり、岩手県医師会を代表して心よりお慶びを申し上げます。

岩手県予防医学協会は昭和45年に任意団体として発足し、同年財団法人の認可を受けて以来50年の永きに亘り県民の保健衛生の向上に尽力してこられました。設立に関わった方々の英断と、その後を引き継ぎ、紆余曲折を経ながらも弛まぬ努力で現在の隆盛を築かれた歴代会長はじめ役職員、並びに関係各位の熱意と精進に対し深甚なる敬意を表するものであります。

また、この度は50周年に際して周年誌の編纂を企画されましたが、歴史の記録は先達に対する感謝の証であり、後輩に対する伝統の継承であります。編集に携わった皆様方の熱い思いを強く感じるところです。

岩手県予防医学協会が県民の健康管理事業を拡充するために、岩手県医師会との連携推進を模索されたのは、昭和53年のことであります。以来、関係各位のご理解を頂き、岩手県医師会を初めとして県内の全ての郡市医師会の理解の下に連携推進が行われ、今日の発展に繋がって参りましたことは、誠に喜ばしいことと思っております。

設立以来、学校保健、地域保健、産業保健の3本柱を中心に、人間ドック、環境測定、特殊健診など多くの事業を推進されてきたほか、平成27年からの幼老統合事業の展開、そして、平成30年の精密検査外来施設「ふわり」の開設といった時代に即した取組みを積極的に進められるなど、県内唯一の総合健康支援機関として、病気の早期発見による県民の健康管理、健康づくりに多大の貢献をしてこられました。

岩手県予防医学協会におかれましては、これまで辿られた50年の輝かしい歴史を礎として、役職員が一致協力して立ちはだかる問題を克服し、岩手県医師会との連携の下で、今後益々充実発展され、益々県民の健康維持に貢献されますことを心より祈念申し上げ、お祝いの言葉と致します。

祝　公益財団法人岩手県予防医学協会
創立50周年

岩手県農業協同組合中央会／岩手県信用農業協同組合連合会／
岩手県厚生農業協同組合連合会／全国農業協同組合連合会岩手県本部／
全国共済農業協同組合連合会岩手県本部　会長

小野寺　敬作

公益財団法人岩手県予防医学協会の創立50周年をＪＡいわてグループを代表いたしまして、心からお祝い申し上げます。

振り返りますと貴協会は、平成23年に発生した東日本大震災の際には、実施が不可能と思われた沿岸被災地の健診を、行政との連携により実施されるなど、復旧・復興を支援する活動に大いに貢献されました。

そして、平成25年には、新健診施設「Big Waffle」を建築され、翌年（平成26年）には、これまでの専門ドックに加え、脳ドック等、新たな人間ドック、精密検査外来を開始されるなど、着実に健診事業の地歩を固めてこられたことに対し敬意を表する次第であります。

ＪＡいわてグループでは、平成30年11月に開催した第45回ＪＡ岩手県大会において、「地域の活性化への更なる貢献」として、「ＪＡ総合事業を通じた生活インフラ機能の発揮」を決議し、継続して取り組んでいます。

具体的には、農家組合員・地域住民が健康で豊かな生活を送れるよう健康寿命の延伸をめざし、生きがいのあるくらしづくりに向けた健康教育活動や人間ドック等に重点を置いた健康増進活動など、「ＪＡ健康寿命１００歳プロジェクト」に取組んでおります。

貴協会の事業は、ＪＡの組合員およびその家族ならびに地域住民の健康を守る活動において密接に連携しており、本県厚生事業における独自の健康増進活動としても深く根付いてきた取り組みとなっています。

ＪＡいわてグループにおける健康増進活動の歴史は、いわば貴協会とともに歩んできた歴史であるといっても過言ではありません。

時代は、平成から令和へと移り、新型コロナウイルス感染症への対応が焦眉の急となっている昨今であります。貴協会の創設者の理念である「予防に勝る治療なし」は、半世紀を経た今日、ますます重要性を増しているものと思います。

これまでの貴協会のご指導ご鞭撻に感謝申し上げますとともに、これからも予防医学の殿堂としての益々のご発展をご祈念申し上げお祝いの言葉といたします。

創立50周年おめでとうございます。

公益財団法人結核予防会　理事長

工藤　翔二

『岩手県民の健康と福祉に寄与する』を基本理念とし、昭和45年に創立された岩手県予防医学協会が、めでたく創立50周年を迎えるにあたり、結核予防会を代表して心からお祝いを申し上げます。

今、日本は新型コロナウイルスのまん延によって２２，２４８人（７月13日現在）が感染する中、ただ一人の感染者も出していない岩手県の皆様の感染予防へのご努力に敬意を表します。

現在、世界では年間１，０００万人が結核に罹患し、１５０万人が命を落としています。日本も戦後の罹患率人口10万対７００という高まん延時代から、官民を挙げた努力によって罹患率12・3まで低下させることができました。ここ岩手県では、貴協会が創立された昭和45年には罹患率人口10万対１４１・６でしたが、現在は、すでに私たちが目標とする人口10万対10を下回る8・5にまで減っております。これも皆様の「予防に勝る治療なし」の言葉の通り、結核対策へのご努力の賜物と思います。引き続き、さらなる結核の撲滅に向かって、お力を尽くして頂くようお願いします。

思えば、この10年間に皆様には大きな試練がありました。２０１１年３月11日に発生した東日本大震災は、岩手県にも死者・行方不明者が６，０００人を超える未曾有の被害をもたらしました。貴協会も人的被害こそ免れたものの検診車等を津波で失うなどの被害を受けながら、被災地に延べ２５０人余りの職員を派遣されるなど、沿岸部で被災された人々の健康支援のために献身されました。本会も、総裁秋篠宮妃殿下のもとに対策会議を立ち上げ、全国47都道府県支部の協力を得て、東日本大震災直後から医療・保健支援や結核等感染症対策、被爆測定を含む健康支援を行いました。岩手県には、県立大船渡病院への2か月にわたる医師派遣や山田町避難所への看護師・保健師の派遣など、微力ではありましたが、皆様のお役に立ちたいと精一杯の支援をさせていただきました。

岩手県は震災から10年、大きな復興を成し遂げ、新型コロナ感染症ゼロ、結核の低まん延が示す健康県として歩まれています。貴会が創立50周年を機に、さらに発展され岩手県民の皆様の健康と福祉に寄与されることを祈念いたします。

岩手県予防医学協会創立50周年に寄せて

公益財団法人予防医学事業中央会　理事長
櫻林 郁之介

公益財団法人岩手県予防医学協会の創立50周年を心からお祝い申し上げます。貴会は昭和45（1970）年10月に設立されて、その翌年2月には本会の岩手県支部として、本会グループに加わり以来、岩手の地で予防医学運動を強力に推進して来られました。

その始まりは、4名の職員による寄生虫卵の検査からと聞いております。翌年には、農村巡回検診を開始して、更には、後に国の制度となる「基本健康診査事業」のモデルとなる循環器系の健診も開始しています。市町村、農協等と提携し組織化をして事後指導を充実させての健康づくりに取り組み、全国的に行われた循環器病予防活動の範となるものでした。

その後、学域、地域、職域の健診、がん検診、人間ドック、健康教育にも早くから取り組み、体制的にも学術的にも充実した事業展開を行い、飛躍的に業務と組織を拡大拡充させたのは驚異的といえましょう。

先駆的な取り組みと云えば、国内で最初の胸部CR検診車を稼働、乳がんマンモグラフィ車にもCR装置を搭載するなど、検診車のデジタル化による被曝線量の低下や画像精度を向上させました。また、人間ドックのMRI室を透明化して受診者と検査者を一体化させ、かつ高性能装置を導入して画期的な安心安全な検査環境作りも実現しました。

特定健診・特定保健指導の導入後は、健康支援体制の充実や健診情報を分析して提供を行い、岩手県民の総合健康支援機関としての陣容を備えられました。

現在では、健康診断・健康増進事業の拠点施設として「ビッグワッフル」を整備されました。また、幼老統合施設「Cocoa」で、福祉事業の取り組みの一環として、園児と高齢者が集う場所を提供しています。更には精密検査者を医療へ効率的に振り分けを担う「精密検査外来」を開設するなど、県民の総合的な健康と福祉に貢献できる体制を築き上げました。

思えば、50年前に予防医学の理念と県民の健康づくりの信念のもとに協会が創立され、これまでに多くの役職員が情熱を注いで育てられたからこそ、県、市町村の行政、医師会、大学、農協などの関係団体からの支援や援助を頂いて今日の協会が築かれたものです。

創立50周年を機にして、貴協会がますます発展して、岩手県民の健康づくりに貢献されることを祈念いたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。

創立50周年を祝して

公益社団法人　全国労働衛生団体連合会　会長
紀陸 孝

公益財団法人岩手県予防医学協会が創立50周年を迎えられましたことに対し、心からお慶び申し上げます。

貴協会は、設立以来、岩手県民の健康と福祉に寄与することを基本理念に、123万県民の健康診断事業、健康増進事業等を実施し、多大な成果を挙げて来られました。そして、産業保健分野におきましても、県内4万企業、35万人労働者の健康保持増進のため、岩手県最大の健診機関として中心的役割を果たしておられます。全衛連として、貴協会の産業保健に対する熱意と努力に対し、改めて深甚なる敬意を表する次第です。

全衛連は、健診における検査精度を評価する総合精度管理事業、健診優良施設を認定する労働衛生サービス機能評価事業、健診施設職員の能力向上を目指した教育研修事業の実施等により、健診品質の一層の向上を図り、もって働く人々の健康確保・増進に務めて参りました。

貴協会は、全衛連の実施する総合精度管理事業に意欲的に取り組まれ、労働衛生検査、臨床検査、胸部X線検査、胃部X線検査、腹部超音波検査の各部門において、常に最高水準の評価を得ております。また、労働衛生サービス機能評価の第1回評価認定を受けて以来、毎回優秀な成績で更新を続け、健診優良施設であることが証明されています。このように高い健診技術、サービス品質により、今後とも岩手県民の健康確保・保持増進に一層貢献されることを期待いたします。

新型コロナ感染症の感染拡大というかつて経験したことのない状況下にあります。全衛連はこの4月、健診8団体と連携し、業界ガイドラインである「健康診断実施時における新型コロナ感染症対策」を取りまとめ、皆様の健診実施環境の整備・確保に努めております。

新型コロナ問題により健診事業に様々な影響が出ておりますが、貴協会のこれまで蓄積された豊富な経験を十分発揮され、必ずやこの困難を克服し、創立50周年を大きな節目とし、さらなる飛躍を遂げられますよう祈念いたします。